

日技指定研修「顎口腔機能学」

演題：「顎口腔機能学」をわかりやすく
ーこれからの歯科技工に求められていることー

日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学主任教授
日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座主任教授

小出 馨

医療の目的は人の健康維持です。その中で歯科医療の果たす役割は、歯列をはじめとする顎口腔系の再建と保全による諸機能の維持増進で、諸機能には咀嚼、嚥下、呼吸、発音、口腔感覚、審美、姿勢維持などが含まれます。

そして、医療の中でも唯一歯科だけが介入できる咬合治療は、顎口腔系のみならず全身の健康や身体運動能力に、ひいては国民の日々の生活の質や健康寿命にまで大きく影響を及ぼす極めて重要な要素です。さらに咬合は、前頭前野をはじめとする脳機能の活性化、生きることへの意欲の回復、精神心理状態の改善にまで影響し、人生の満足度の観点からも極めて重大な役割を果たしています。

また近年、患者さんから咬合が顎関節や全身に及ぼす影響、さらにその不調和に由来する様々な症状についての問い合わせが大変多くなってきており、患者さんの咬合と全身に対する認識が大きく変化してきていることを痛感させられます。特に補綴による咬合治療を臨床現場で実際に行う歯科医師と歯科技工士が、十分に認識しておかなければならない重要事項は、顎口腔系の調和をみだす補綴治療を行ったとしても、直後には顕著な影響は現われてこず、治療後数ヶ月～1年以上経過してから顎関節や筋、そして全身の様々な症状や障害となって発現してくる場合が多いことです。私達歯科医療者には、専門領域である咬合と顎関節に関する十分な理解と治療内容の更なる高度化が強く求められているのです。

今回の研修では、今後歯科の目指すべき方向性と、歯科医師と歯科技工士の円滑な連携のために不可欠な「顎口腔機能学の要点」と「咬合の再構築基準」を臨床に即してお示しします。会場に来て下さった皆様と、これからの歯科医療のあり方、その役割とやり甲斐の大きさを一緒に確認したいと思っています。

どうぞ宜しくお願い致します。